

令和3年度 第1回登別市地域公共交通活性化協議会 議事録

開催概要

日 時 令和3年10月5日（火） 15:00～16:10
場 所 登別市役所 2階 議場
出席者 別紙のとおり

議事内容

1 開会

2 委嘱状交付

出席委員15名に登別市小笠原市長から委嘱状を交付

3 小笠原市長あいさつ

本日の協議会は新型コロナウイルスの感染状況によっては書面開催も検討しておりましたが、9月30日をもって緊急事態宣言が解除されたことから、当初の予定どおり、委員の皆さまに参集していただき、開催することができました。

本日は、登別市地域公共交通計画の案を皆さまに確認していただき、ご意見を伺うことがメインであると聞いております。

新型コロナウイルス感染症の収束時期を見通すことがなかなかできない中、公共交通については、利用者数の減少、高齢者をはじめとした交通弱者といわれる方への対応、運転手不足に伴う対応など、さまざまな課題に向き合い、対応する必要があります。

公共交通に関する課題はすぐに解決できるものではないのかもしれませんが、ひとつずつできることから解決していきたいと考えております。

各分野からお集まりいただいた委員の皆さまから助言や指導をいただきながら、諸課題の解決に向けて取り組み、持続可能な公共交通の体制を構築していきたいと考えておりますので、引き続き、ご協力よろしくおねがいます。

【小笠原市長はあいさつ後、公務のため退席】

4 会長の選任・副会長の指名について

会長に登別市市民生活部千葉部長を選任することで全会一致。

【千葉会長あいさつ】

本協議会を設置した大きな役割として策定を進めている登別市地域公共交通計画の案を今回、委員の皆さまに案を示すことができました。

地域にあったより良い計画になるよう委員の皆さまからのご意見をいただきながら進めて行きたいと考えておりますので、引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

千葉会長が有村幹治委員を副会長に指名。

5 会議の成立報告

- ・ 本日の協議会委員出席者数は15名。
- ・ 委員の過半数が出席しており、登別市地域公共交通活性化協議会設置要綱の規定に基づき、会議が成立していることを千葉会長が報告。

6 議事録署名委員の指名

千葉会長が木村（尚）委員と郷路委員の2名を議事録署名委員に指名。

7 議事

(1) 登別市地域公共交通計画（案）について

- ・ 説明者：登別市地域公共交通活性化協議会事務局
- ・ 登別市地域公共交通計画（案）を説明

委員からの主な意見

【有村副会長】

- ・ 基本方針の数値目標は記載されているが、各数値種目の具体的な算出・評価方法についての記載がないので、検討し、記載してほしい。

【A委員】

- ・ デマンドの予約運行について、アンケートでは予約運行に懸念を示している高齢者がいるとなっているが、「予約運行」はセールスポイントでもある。
- ・ 人口減少が見込まれる中で、バス路線を維持していくことが困難となれば当然、デマンド運行という方法が検討されるので、導入する際は「予約運行」のメリットを利用者に対しわかりやすく説明してほしい。

【有村副会長】

- ・ 室蘭市では、パーソントリップ調査とデータと道南バスのデータを活用して路線ごとに将来の利用者予測をしている。
- ・ 予測から将来的に利用者が少なくなる路線についてはデマンド化を議論する必要があるが、バス事業者だけではできない議論である。

- ・ デマンド化を進めるのであれば、乗換拠点の整備を進めていく必要があり、拠点の整備はそれぞれの自治体の状況に応じて進めていく必要がある。
- ・ 計画を策定することも必要だが、何を指標として進めていくかということが重要である。
- ・ バスについては、各路線の将来分析を行い将来の方向性を協議会で議論することが必要である。

【B委員】

- ・ 待ち時間対策として、観光客にはレンタサイクルによる周遊観光を計画しているが、市民に対する待ち時間対策についても検討してほしい。

【千葉会長】

- ・ 公共交通については、室蘭市や白老町などの近隣自治体をはじめ関係機関と連携して事業を進めていく必要がある。
- ・ いただいた意見については、できる限り計画に反映させていきたい。
- ・ 委員の皆さまからも何か情報があれば積極的に提供してほしい。
- ・ また、意見や疑問があれば意見シートに記載して事務局まで提出してほしい。

(2) 登別市の公共交通に関する動きについて

① トヨタ・モビリティ基金を活用した登別温泉地域における地域活性化に向けた新モビリティ運行（実証実験）について

- ・ 説明者：日本データサービス株式会社
- ・ 別紙資料に基づき、事業の概要と今後の予定等を説明

【C委員】

- ・ 定員が10名となっているが、乗車希望が10名を超えた場合はどのように対応するのか。

【日本データサービス株式会社】

- ・ 定員を超えた場合は、乗車をお断りすることになる。
リーフレット等に記載してホテル等に配布し、混乱がないように進めたい。
- ・ 実証運行期間は休みなく運行するので、ぜひ試乗してほしい。

② 室蘭市が実施する公共交通事業との連携について

- ・ 説明者：登別市地域公共交通活性化協議会事務局
- ・ 口頭で西いぶり3市3町を対象に実施するアンケートと都市間バス・タクシー相乗り事業で連携する予定があることを説明。

③ バスロケーションシステムの運用開始について

- ・ 説明者：登別市地域公共交通活性化協議会事務局
- ・ 別紙資料に基づき、道南バス株式会社がバスロケーションシステムの運用を開始したことを説明

8 その他

【千葉会長】

- ・ 本日の協議会を総括し、専門的な知識を有している有村副会長からひとこといただいてもよろしいでしょうか。

【有村副会長】

- ・ 先日、伊達市を運転していた際、高齢ドライバーによる危険な運転を目撃し、改めて、自動車を運転できない高齢者の「移動の足」を確保する必要があると感じた。
- ・ 住民の高齢化とともに公共交通の運転手も高齢化が進むが、バスの運転手は50代が多い状況なので、交通手段が変化した場合でもシフトすることができるのではないかと思います。
- ・ 今あるデータを活用しながら、今後の将来予測を実施していく必要がある。

9 閉会

【千葉会長】

- ・ 以上をもちまして、令和3年度第1回登別市地域公共交通活性化協議会を終了させていただきます。
- ・ 本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

以上